

# 検証1&検討会③：プロトタイプ画面を用いた生成AI活用の可能性探索

## ■ 対象ユースケース

検証1で取り扱った4つのユースケースの詳細は以下の通りです。

	A：質問観点(アセスメント観点)のアイデア出し	B：支援方針のアイデア出し	C：制度・社会資源の示唆	F：シナリオに応じたアセスメントのロールプレイ
ユースケース	<p>こんな見方もあるかも...!</p>	<p>こんな支援のアプローチがあるかも...!</p>	<p>こんな制度みつけたよ!</p>	<p>一緒に練習ができるよ!</p>
機能	<p>支援関係機関が把握している事案状況を引き出すためのアセスメント観点のアイデア出しをサポートする。</p>	<p>支援関係機関からの相談内容をもとに、支援方針のアイデア出しをサポートする。</p>	<p>支援方針の整理に向け、制度・社会資源に関する知見を深めるためのサポートをする。</p>	<p>AIが関係機関となって、シナリオに沿ったアセスメント等の訓練をロールプレイでサポートする。</p>

<参考> ユースケースD及びEは、開発のための期間的な制約により、検証1及び検討会③での実施を見送っている。

2. 検証フェーズ1 実施結果

検証1&検討会③：プロトタイプ画面を用いた生成AI活用の可能性探索

■ 参考：ユースケースA、B、Cのイメージ

サンプル事例

最初にサンプル事例を試行いただき、生成AIの回答に対する評価をしていただく。

< 複雑・複合的な課題を抱えた相談事例 >

■相談者情報

- 80代女性で要介護2、訪問介護導入検討中。
- 80代の夫、50代の息子と同居中。
- 夫は息子に対し怒鳴りつけるなど精神的DVの疑いがある行動が増えてきている。
- 息子は20年以上前に退職し以降ひきこもり。幻聴が聞こえる等精神疾患が疑われる症状あり。

■相談経緯

- 地域包括支援センターの相談支援員が、80代女性の訪問介護導入の話をするために訪問した際に女性から話あり。
- 世帯全体への支援が必要な可能性があることから多機関協働事業者へ相談。

関係機関から相談を受けました。  
あなたが多機関協働事業者だった場合、  
どのような回答をするでしょうか？

- A：アセスメント観点として不足しているものは？
- B：支援方針は何が考えられるか？
- C：制度・社会資源は何が考えられるか？

その他事例

その他、検証市で考えた2～3件を生成AIで試行

## 検証1&検討会③：プロトタイプ画面を用いた生成AI活用の可能性探索

### ■ 参考：ユースケースFのイメージ

#### AI相談事例

支援関係機関の役のAIが提示するシナリオをもとに、職員が多機関協働事業者の立場でアセスメントを練習し、最後にやり取りについての評価を求めるとAIが評価結果を回答する。やり取りの内容や評価結果について評価いただく。

< 複雑・複合的な課題を抱えた相談事例 >



このご家庭では、入院拒否している70代女性のほか、70代の個人運送業を営む旦那さん、40代パート勤めのシングルマザーの娘、20代の障害手帳取得済の娘、中学生の不登校のお子さん、小学生のお子さんと同居して暮らしています。70代女性に治療してほしいものの金銭の問題か受けてもらえません。また40代娘さんが子どもの特性や問題に悩んでいて、どうしたらよいかわからないと相談をしてくれています。地域のつながりも薄く、親族は支援を拒否しています。どのような支援が考えられるか、一緒に検討していただけますか？

AIが相談シナリオを作ります！



AI:  
関係機関

あなた:  
多機関協働事業者

支援関係機関から相談を受けました。  
あなたが多機関協働事業者だった場合、  
どのようなアセスメントのやりとりをするでしょうか？

検証1では、以下の支援関係機関（AI）との  
ロールプレイがお試しできます。

- 地域包括支援センターのケアマネジャー
- こども家庭センターの相談員
- 医療ソーシャルワーカー

ランダムに生成されたシナリオをもとに、2～3件試行

## 検証1&検討会③：プロトタイプ画面とユースケースに対する評価と対策について

### ■ 実施結果

#### ユースケースA

支援関係機関等が把握している  
事案状況を引き出すための  
質問観点のアイデア出しをサポート



#### ■ 評価結果

- 「役立つ」との評価が大半

#### ■ 現場の主なコメント

- アセスメント概要が整理されているのは役立つ。
- 初回の面談等に望む上での視点を、整理された状態で提示してもらうことができ、考えるための材料になる。
- 気になる観点(不足観点)は網羅的に出さず、数件出た方がよい。
- 生活歴・生育歴や、世帯員の強みにあたることを観点として盛り込めるとよい。
- 支援関係機関の困りごとや多機関協働事業に繋げた背景の把握が重要。

#### ■ 課題と対策

- 現場の職員が普段考慮している観点が盛り込めていない側面がある。ヒアリングで得た情報も含めてデータ拡充や技術強化を図る必要がある。

#### ■ 今後の検討事項

- 「多機関協働事業においては支援関係機関が抱える課題等の状況把握が重要」との声が多く寄せられている。
- 今後は相談記録PFのデータ項目に当該情報を組み込んでいくことが可能か検討を進めたい。
- 連携された事案状況だけでなく、自分の考え(アセスメント観点)を入力し、それに対する不足事項や気になる観点が示唆されるとよいとのコメント有。

## 検証1&検討会③：プロトタイプ画面とユースケースに対する評価と対策について

### ■ 実施結果

#### ユースケースB

ケースの概要情報をもとに、  
支援方針のアイデア出しをサポート



#### ■ 評価結果

- 「役立つ」という回答が多いものの、提示される支援方針によっては、「役に立たない」との評価もあった。

#### ■ 現場の主なコメント

- 長期化した相談事例において、初心に立ち返ることができてよい。
- 会議の前準備として活用できる。
- 適切なアセスメント後でないと、支援方針の提示効果は限定的。
- 地域の実態にあった支援関係機関とつなぐ案が紹介されるとよい。

#### ■ 課題と対策

- 支援方針の内容が実態と乖離しているケース有。より現場の実態やニーズに即した支援方針が提示できるように調整していく必要がある。

#### ■ 今後の検討事項

- 将来的には、単に相談記録を蓄積するだけでなく、地域リソースなどの情報も蓄積し、より現場の相談支援員が支援方針のアイデア出しをしやすい環境を整えていく必要がある。

## 検証1&検討会③：プロトタイプ画面とユースケースに対する評価と対策について

### ■ 実施結果

#### ユースケースC

支援方針の整理に向け、  
**社会資源・制度に関する  
知見を深めるためのサポート**

こんな制度みつけたよ！



社会資源・制度を探し  
たい



#### ■ 評価結果

- 色々な制度が知ることができたという声があった一方、地域特有の制度・社会資源でないと「役立たない」との評価が多かった。

#### ■ 現場の主なコメント

- 地域特有の制度・社会資源の情報が必要。
- 一般的な制度・社会資源の情報は、入り口となる支援関係機関の相談窓口のほうが役立つかもしれない。

#### ■ 課題と対策

- 地域特有の制度・社会資源の提示が必要という意見が多いが、情報が電子化されていないことが多い。また情報が更新されるたびに、データをアップデートしていく必要がある。
- 従ってデータ蓄積に向けた仕組みの検討から行う必要がある。

#### ■ 今後の検討事項

- 地域特有の制度・社会資源データを蓄積していくための土台が必要。
- 現場の職員が積極的に情報を蓄積していくための仕組みづくりが必要となる。

## 検証1&検討会③：プロトタイプ画面とユースケースに対する評価と対策について

### ■ 実施結果

#### ユースケースF

シナリオに沿った  
アセスメント等の訓練を  
ロールプレイでサポート

一緒に練習ができるよ！



壁打ち相手がほしい



#### ■ 評価結果

- 「役立つ」との回答が大半であった。

#### ■ 現場の主なコメント

- 様々な観点を指し示してくれて、とても勉強になった。
- 言葉遣いの参考になる。
- AIの応答が優秀すぎる。支援関係機関はそこまで多くの情報を持っていない。
- ロールプレイを使う場面を業務の中で捻出しづらい。
- レベル別でロールプレイができると良い。
- 評価がポジティブすぎて鵜呑みにできない。
- 支援関係機関の課題等を聞きとれているかを評価観点に含めたい。

#### ■ 課題と対策

- 現状は、実際の支援関係機関との対話や、現場指導員による評価と比較し、一部乖離がある。技術検討やデータ拡充を踏まえて、精度を高めていく必要がある。
- 業務中にロールプレイをするのは難しいとの意見があり、勉強会や研修の場で使う等、使用シチュエーションを具体化する必要がある。

#### ■ 今後の検討事項

- 実際の対話データや現場の指導観点に関するデータ収集方法の検討が必要。
- 人材育成における指導観点については、暗黙知になりがちで、データ化されていない場合が多い。今後ヒアリングやアンケートを行い、形式知化を図っていくことが重要。

## 2. 検証フェーズ1実施結果

## 検証1&amp;検討会③：プロトタイプ画面とユースケースに対する評価と対策について

## ■ 実施結果

参考：その他のユースケース

検証1対象外のユースケースに関しても、検証1の事後ヒアリングによると、人材育成に向けた一定のニーズがあることが明らかになりました。

## ■ ユースケースD：ケースの概要情報をもとに類似事例を提示し、事案への向き合い方をサポート

- 過去の類似事例がないかを相談されるケースもある。特に「ヤングケアラー」「宗教二世」「闇バイト」など、近年注目される課題についての問い合わせが増加している。
- 相談支援員や自治体職員の異動や退職があるため、過去事例の共有があるとよい。相談事例は地域の共有財産と考えている。
- 世帯員が抱える課題に関連して、過去の類似事例を網羅的に列挙して提示できると理想。
- 支援方針の検討は労力を要するため、過去の類似事例を参考にアイデアを練りたい。同規模の他市の事例もわかるとよい。
- 現在は過去の事例を事例集などから手作業で検索したり、他市に電話で確認したりしているため、時間削減が期待できる。

## ■ ユースケースE：重層的支援会議で参加者から意見や知見を引き出すための質問観点のアイデア出しをサポート

※重層的支援会議以外に限った意見ではないが、会議全般に関するニーズや意見として以下の内容が挙がった。

- 分野を超えた事例検討会を開いているが、ファシリテーターをやると他者の意見のまとめに注力してしまい自分の意見が言えなくなるため、ファシリテーターをAIにしても良いかもしれない。言葉の裏がなく、フラットな質問が投げかけられるのではないかと期待する。
- 重層的支援会議は多機関協働事業の要であり、そこをAIに任せるとなると、多機関協働事業者がいらなくなるのではという懸念有。
- 重層支援会議の場면을疑似的にシミュレーションできる機能や、関係者を会議に招集する際の呼びかけメッセージを言語化できる機能であれば助かる。

2. 検証フェーズ1 実施結果

検証1&検討会③：人材育成の取組の時間短縮に資するユースケースの評価

検討会③後のアンケートにおいて、最も人材育成の取組時間を短縮できると考えられるユースケースは、「ユースケースA」でした。

投票結果

1位

ユースケースA： 支援関係機関等が把握している事案状況を引き出すための <u>質問観点</u> のアイデア出しをサポート	ユースケースB： ケースの概要情報をもとに、 <u>支援方針</u> のアイデア出しをサポート	ユースケースC： 支援方針の整理に向け、 <u>社会資源・制度</u> に関する知見を深めるためのサポート	ユースケースF： シナリオに沿った <u>アセスメント</u> 等の訓練を <u>ロールプレイ</u> でサポート
4票	2票	0票	2票

投票理由

ユースケースA

- 指導する立場の職員の負担が多少軽減されると考えたため。
- 独力でケース対応をするための手がかかりがつかめ、他の職員の時間が確保されると考えたため。
- 質問する観点のアイデア出しについて、対象者に対して質問する場合についても有効であり、人材育成の時間短縮（聞き取りの準備）が図られると考えたため。
- 支援関係機関からの相談があった際に一度預かりとし、ケースを課内で共有する際の情報量が不足すると、再度状況確認をしなければならないが、その部分が短縮されると考えたため。



ユースケースB  
投票理由  
記載なし。

ユースケースF

- 人材育成のために適した事例を選び、レクチャーする時間を短縮できると考えたため。
- 実践以外に相談者とやりとりを経験できる場所がないため、実践に近いかたちを体験することで、現状よりは育成時間を短縮できると考えたため。



## 検証フェーズ1から導出した【人材育成検証のコンセプト】

人材育成には、視点の偏りやスキル差、知識不足といった課題があり、多角的に考える力の育成が求められています。そこで相談記録PFの蓄積データ等を活用し、考えるきっかけとなる情報を提供することで、選択肢を広げる人材育成機能が必要と考えられます。

### 人材育成の課題

- ・視点の凝り固まり
- ・経験やスキルの差による質の差
- ・答えを求めてしまい、  
長期的あるいは別の視点で考えられない
- ・専門的な知識の不足



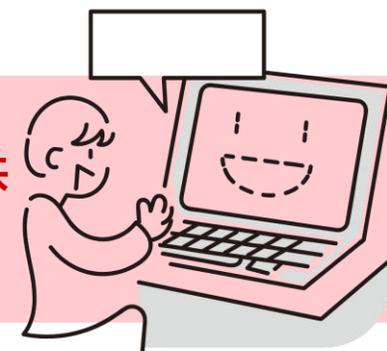
### 人材育成に求められるもの

- ・先入観にとらわれず  
『多角的な視点で全体を見渡す力』
- ・答えを教えるのではなく考える余地を残す
- ・自分の考えに対するアドバイス
- ・整理できていない頭の中を言語化できる



### 人材育成機能のコンセプト

考える力を育成するために、**解ではなくきっかけや糸口となる情報を提供**  
多角的な視点による選択肢の拡充へつなぐ



### 3. 検証②に向けたご説明

3.検証②に向けた説明

コンセプトを踏まえた検証フェーズ2のスコープ

検証フェーズ1 でいただいたご意見とコンセプトを踏まえ、具体化した人材育成機能の活用例は以下の通りです。

人材育成機能の活用例：多角的な視点で全体を見渡す力をサポート

支援関係機関からの様々な相談対応スキルの向上（日々の業務での活用を想定）

ユースケースA~E



検証2対象

ユースケースA  
事案状況を引き出すための質問観点のアイデア出しをサポート

ユースケースB  
支援方針のアイデア出しをサポート

ユースケースC  
制度・社会資源に関する知見を深めるためのサポート

ユースケースD ※  
類似事例を提示し、事案への向き合い方をサポート

ユースケースE  
重層的支援会議での意見や知見を引き出すためのアイデア出しをサポート

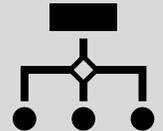
基礎対話スキルの向上（研修等での活用を想定）

ユースケースF



ユースケースF  
シナリオに沿ったアセスメント等の訓練をロールプレイでサポート  
AIの役割、ロールプレイのレベルを選択「きびしめ／やさしめ」・・・

支援関係  
機関との  
連携・  
役割分担



一連のユースケースを実装できることが理想ですが、検証フェーズ2は

**「ユースケースA」に焦点をあてて機能のブラッシュアップを行い、人材育成効果を検証します。**

※ユースケースDは相談記録PFの「類似事例検索機能」と類似しますが、フェーズ2ではユースケースAと併せて活用することにより、事例に沿った観点の補完や判断の妥当性向上が期待できるため、補足情報として類似事例を出力できないか検討中。

3.検証②に向けた説明

(参考) 検証フェーズ2に向けたユースケースの検討

現場ニーズが高く、日々の業務の中で支援関係機関からの相談対応スキル向上が見込めることから『ユースケースA』を選定。

#	ユースケース案	①現場のニーズ観点 (人材育成とのマッチ度)	②時間削減の観点	③データ有無・その他の観点	総合評価
A	支援関係機関等が把握している事案状況を引き出すための質問観点のアイデア出しをサポート	○ 検討会2で投票数3位 (6票) 初回面談や打ち合わせに望む際の視点が整理された状態で提示されるので役立つとの意見有	○ 検討会3で投票数1位 (4票) ベテランに頼ることなく独力で対応するための手がかりを得ることができ、他の相談支援員の時間が確保されるとの意見有	△ 相談事例データは資料毎に記載粒度が異なるため、データ加工に時間を要する	○
B	ケースの概要情報をもとに、支援方針のアイデア出しをサポート	△ 検討会2での投票数4位 (2票) 一般論で役立つないという意見と、長期化された課題があった場合に原点に立ち返れてよいという意見有	△ 検討会3で投票数2位 (2票) 意見なし	△ 相談事例データは資料毎に記載粒度が異なるため、データ加工に時間を要する	△
C	支援方針の整理に向け、社会資源・制度に関する知見を深めるためのサポート	△ 検討会2で投票数4位 (2票) 一般的な制度・社会資源情報の提示であれば、多機関ではなく包括の相談窓口での利用がより適切であるとの意見有	× 検討会3で投票数3位 (0票) 意見なし	× 地域性の高い活かしたデータが必要との意見を得たが、当該データの整理には、自治体毎に時間をかけて収集する必要がある。 相談記録PFの「制度・社会資源検索機能」により実現可能と整理	×
D	ケースの概要情報をもとに類似事例を提示し、事案への向き合い方をサポート	○ 検討会2で投票数1位 (9票) ケースに対応する過去の類似事例の提示は、知識が不足しがちな人材育成に役立つとの意見有	- (検証対象外)	× 相談記録PFで想定されている「類似事例検索機能」により、類似事案の提示については、当該機能により実現可能と整理	△
E	重層的支援会議で参加者から意見や知見を引き出すための質問観点のアイデア出しをサポート	△ 検討会2で投票数4位 (2票) 議論の転換やスムーズに進めるためのアイデアがあると嬉しいという意見有	- (検証対象外)	× 相談記録PFでは会議の音声データの蓄積機能はなく、意見を引き出すプロセスの発言等を含む議事録入手も困難であることからデータ収集が困難	×
F	シナリオに沿ったアセスメント等の訓練をロールプレイでサポート	○ 検討会2で投票数2位 (7票) 技術として目新しさがあり、構成員からの希望度は高い一方で、業務時間中にロールプレイを行うことは難しいという意見有	△ 検討会3で投票数2位 (2票) 人材育成のために適した事例を選び、教育時間の短縮が見込めると意見有り	△ 相談事例データや過去ヒアリング結果を活用してチューニングが可能。ただしリアリティのある役割を生成するには、ロールの属性情報や現場の指導観点等のデータが必要 また、実現に向けては、現場特有の言い回しの再現が求められる等、実現難易度が高い	△

### 3.検証②に向けた説明

## 検証フェーズ2の設計

ユースケースAの機能コンセプトおよび期待効果は以下の通りです。

ユースケースAのコンセプト

支援関係機関等が把握している事案状況を引き出すための質問観点のアイデア出しをサポート



確認漏れはないかな



HITACHI

### 人材育成における課題

- 多機関協働事業者は、支援関係機関から連携された事案状況を俯瞰的に把握した上で、不足している情報を質問することが求められる。
- 一方、人材育成の課題として、視点の偏りにより課題の把握が不十分になったり、経験・スキルの差によって、事案の深掘りに差が生じることが挙げられている。



### 期待効果

- 事案状況を入力することで、「アセスメント概要」および「不足観点」が提示され、支援関係機関からの情報を多角的に捉える視点の獲得や、新たな気づきのきっかけとなることが期待される。



3.検証②に向けた説明

検証フェーズ2の設計

ユースケースAの活用イメージは以下の通りです。

活用のイメージ

- 多機関協働事業者が、支援関係機関から共有された断片的な事案情報をもとに、情報を整理、深掘りしたいとき
- 長期的・複雑な課題に対して、新しい着眼点や発想を得たいとき



入力

出力

活用例

事案情報



アセスメント  
概要(世帯)

生成AIによるアドバイス

気になる  
観点



支援関係機関  
に対する状況確認  
連携強化



支援関係機関から連携された情報を入力  
また検証2では職員の考え(アセスメント観  
点等)も入力できるように検討中

3. 検証②に向けた説明

検証フェーズ2の設計

検証フェーズ2での検討事項は以下の通りです。

現場職員が普段意識しているアセスメント観点の一部盛り込めていない

検証1でのご要望・ニーズ

機能全般



課題解決型の回答ではなく、発想が切り替わるものがよい。



多角的な視点からのサポートができるようにする。

人が考える余地を残してほしい。



シンプルさを重視し、情報を出しすぎないように留意する。



自分の考えを入力し、それに対する不足事項や気になる観点が示唆されるとよい。



事案情報に対して、自分の考え(アセスメント観点)を入力できるように検討する。

世帯員の強みや生活歴・生育歴などを盛り込みたい。



より現場職員が普段から意識しているアセスメント観点を盛り込めるように、機能改良を検討する。

出力内容



多機関協働事業では、支援関係機関の困りごとや多機関協働事業に繋げた背景の把握が重要。何を期待しているかで役割も変わる。



支援関係機関の困りごとや状況の確認を促せるように、機能改良を検討する。

職員の異動や定年退職があり、知識の継承が課題となる中で、類似事例があると参考になる。但し、事案には個別性がある点は注意。



多機関協働事業のアセスメントを行う際に、新たな発想を引き出すための参考情報として、類似事例を提示できるように検討する。

## 検証フェーズ2の活用データ

検証フェーズ2では、以下のデータを拡充し、生成AIが回答するアセスメント観点（相談事例との関連性をもとにした回答内容）のチューニングを実施します。また模擬となる相談記録票をもとに、参考となる事例の提示を行う予定です。

### 活用データ

#### 1. 研修資料や対応マニュアル資料

研修資料に含まれるアセスメント観点等をチューニングに活用

#### 2. 模擬の相談記録票

世帯や事案状況、アセスメント概要等をチューニングや生成AIの回答結果に活用

・多機関協働事業等の模擬の相談記録票データ（※1）

#### 3. 厚生労働省等が提供する公的資料

厚生労働省様の多機関協働事業に関する要綱等(※2)をチューニングに活用

#### 4. 現場ヒアリング情報および検証フェーズ1のフィードバック結果（※1）

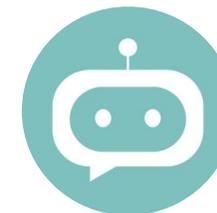
現場のアセスメント観点や優先度、人材育成に向けた留意点等をチューニングに活用

### 人材育成機能

#### ユースケースA

「支援関係機関等が把握している事案状況を引き出すための質問観点のアイデア出しをサポート」  
において生成AIが提示するアセスメント観点を改善することを目指す。

具体的には、相談事例の関連性を踏まえて、より実態に即したアセスメント観点が得られるよう改良を行う。



機能の  
ブラッシュアップ



※1：検証フェーズ1からのデータ拡充対象

※2：厚生労働省（令和7年3月7日）「重層的支援体制整備事業の実施について」<https://www.mhlw.go.jp/content/001436527.pdf>等を参照

3.検証②に向けた説明

検証フェーズ2のスケジュール

検証フェーズ2のスケジュールは以下の通りです。

	令和7年							令和8年		
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
マイルストーン	▲ キックオフ 6/6	▲ データ受領 6/20	▲ 検討会① 7/14 人材育成の取組み 共有・課題抽出	▲ 検討会② 8/21 人材育成に関するAI 活用の方向性検討	▲ 検討会③ 9/18 検証計画の 共有・アプリデモ	▲ 中間報告書 提出	▲ 検討会④ 11/24週 検証結果 1回目の報告			
全体スケジュール	<b>検証フェーズ1</b> 検証フェーズ1：生成AIの活用可能性の探索			<b>検証フェーズ2</b> 具体的なユースケースに沿った 生成AI活用の検証						
千葉県様の実施作業 (関係者調整等)	現場 ヒアリング 1	現場 ヒアリング 2		検証1			検証2			
日立側の実施作業 (検証準備・実施等)	検証計画書 の策定	データ整備・投入 相談記録PFの検証環境準備		検証1	追加データ整備・投入 評価・チューニング		検証2			
千葉県様の実施作業 (関係者調整等)	ヒアリング実施		検証準備・実施調整		検証準備・実施調整					
	データ 入手調整	データ入手 ※2			追加データ 入手調整					

■**検証フェーズ1を踏まえた事後検討(10月初旬)**

ユースケースの絞り込み  
機能改善点の整理、技術検討

■**検証環境のチューニング(10月中旬～11月)**

データ拡充および機能改良

■**検討会④(11月18日)**

AI活用に関する検証結果の中間報告を踏まえ、  
千葉県・県内8市と検討・意見交換

■**検証2の実施(12月)**

模擬の相談記録票を活用した人材育成機能の有  
用性検証

# 本日の議題(再掲)

## 検討会4回目の議題

チャットでも是非  
ご意見・ご感想お送りください！

1. 検証フェーズ1（検討会①～③、検証1回目）の結果のご報告について  
皆様で議論した検討会でのご意見や千葉県下2市で行った検証を通して人材育成機能のコンセプトを纏めております。構成員様のお考えに沿ったものとなっているかご確認をお願いいたします。また、人材育成機能を検討するにあたり改めて重要なポイントや追加のご意見がありましたらご発言をお願いいたします。
2. 検証フェーズ2（検証2回目）に向けた計画について  
検証フェーズ1で頂いたご意見を踏まえて検証2回目の実施内容をご説明いたします。検証内容や改良方針について、アドバイスやご意見がございましたら是非ご発言をお願いいたします。

質疑順番

全体

市川市

柏市

千葉市

船橋市

木更津市

市原市

浦安市

香取市

くらっち様

いちばら  
福祉ネット様

全体

**HITACHI**